

気候変動適応研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	ネイチャーへの論文など、大変大きな成果が出ている。	ご評価いただきありがとうございます。継続して研究成果を創出していけるように努力します。
	農業影響として食料栽培における収量への気候変動影響を発信していただくことで、各自の意識改革などを進めることにつながるのではないか。	支援業務も活用して、適応の重要性を継続してアピールしていきます。
	23件のサブPJは5年間継続するものか？	23件のサブPJは基本5年間継続を予定しています。年複数回のPJ・全体会合において研究進捗を確認し問題等が生じた場合には統廃合も検討します。
	適応に係る技術開発に取り組む際の「技術」とはどのようなものか？	適応プログラムという技術開発は、気候シナリオ高度化、影響予測手法開発、関連モデルなど予測技術を主に指しています。
今後への期待など	気候変動適応に関する研究はまだ成熟した学問分野ではないため、新たな研究としてやりがいのあるプログラムであり、国内外のお手本となることを望む。	ご評価いただきありがとうございます。ご期待に添えるよう精一杯努力します。
	研究成果は上がってきているが、実際の適応策への反映に向け、引き続いての取り組みを期待している。	実際の適応策への反映に向けては支援業務を通じて実施しており、継続して取り組みます。
	日本国内のリーダーとして、シナリオ分析、社会学や心理学の専門家との連携、コンフリクトを認識した問題解決のトレーニングなど意味のある研究活動・啓蒙活動を展開してほしい。	シナリオ分析の適用や社会学や社会科学、心理学等の専門家との連携などを検討します。また、コンフリクトの理解と認識に基づく問題解決は、適応PGのみならず支援業務も通じて取り組むことで、実践的トレーニングを積むことができないか検討します。
	PJ2では空間スケールを意識した構成がなされていることは重要であり、所内や大型研究プロジェクトとの連携・展開などが期待できる	PJ2は国内を扱うものから、分野によりアジア太平洋、さらにはグローバルといった領域が対象となりますので、今後各種連携を通して研究展開を検討します。